

【参考】他国の参考ともなるべき日本市場及び医療制度

- 先の資料(スライド7)にお示したように新薬創出等加算の成果が出てきておりこの制度は他国の参考にもなる
- 加えて日本は世界の参考となる医療制度の国になりつつある
 - ✓ フルカバー・フリーアクセスの国民皆保険
 - ✓ 良好な医療の質
 - ✓ 対GDPにおける医療費の割合が低い
 - ✓ 医薬品は、承認から薬価収載までのスピードが速い

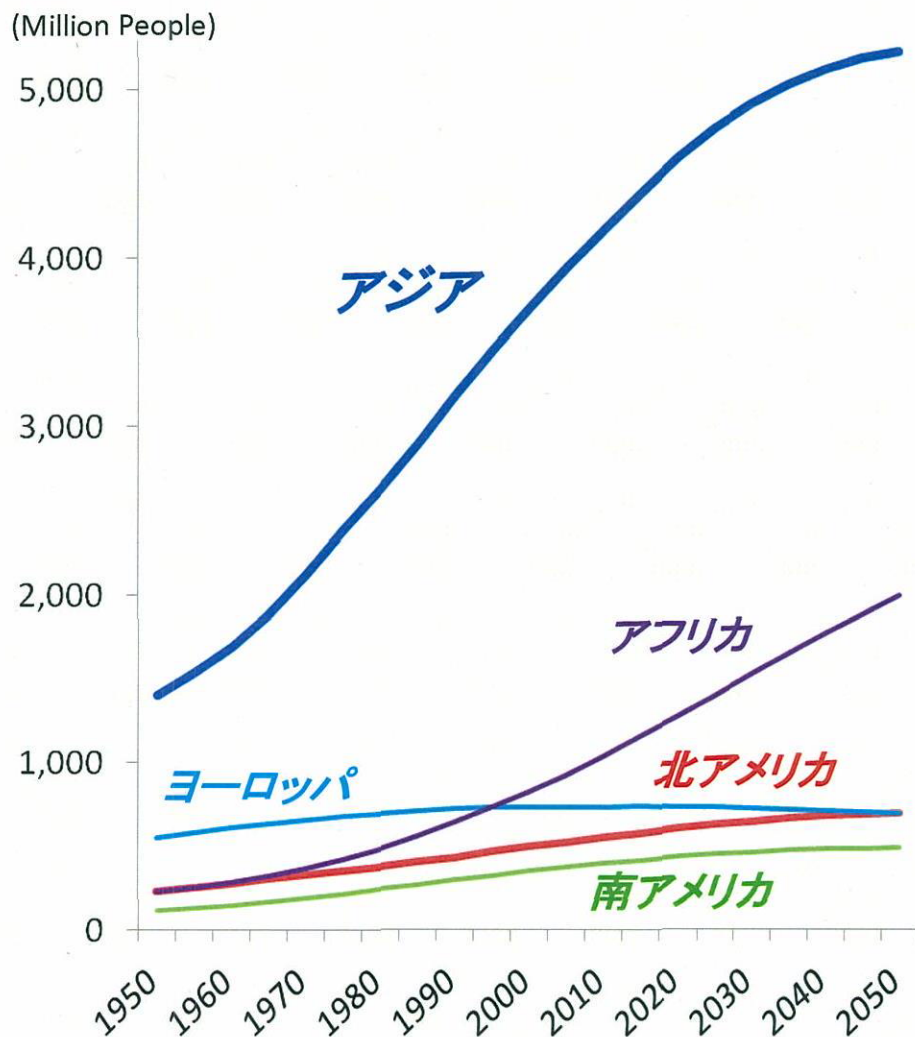


今後もイノベーションを加速しつつ、世界が日本の医療制度を参考にするように発展させていきたい。

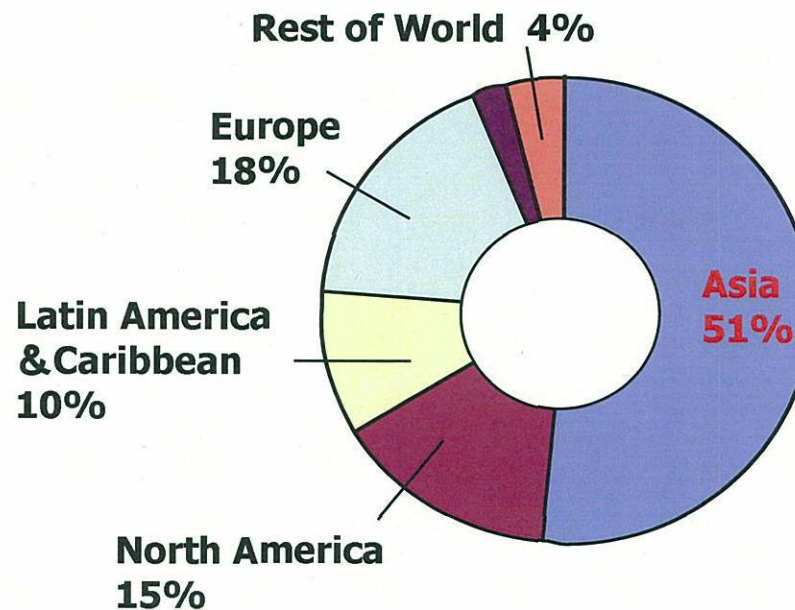
加えて、日本政府には長期的な視点からは、今後の来るべき高齢化社会に向けての医療財源の確保のためには、現在行っているような限られた医療資源の配分や薬価の改定で調整を行うという議論から税を含めて広く財源を求める議論が必要

【参考】世界経済を牽引するアジアの状況

アジアの人口推計



2050年、世界のGDPにアジアが占める割合



Asia GDP : \$ 148trillion

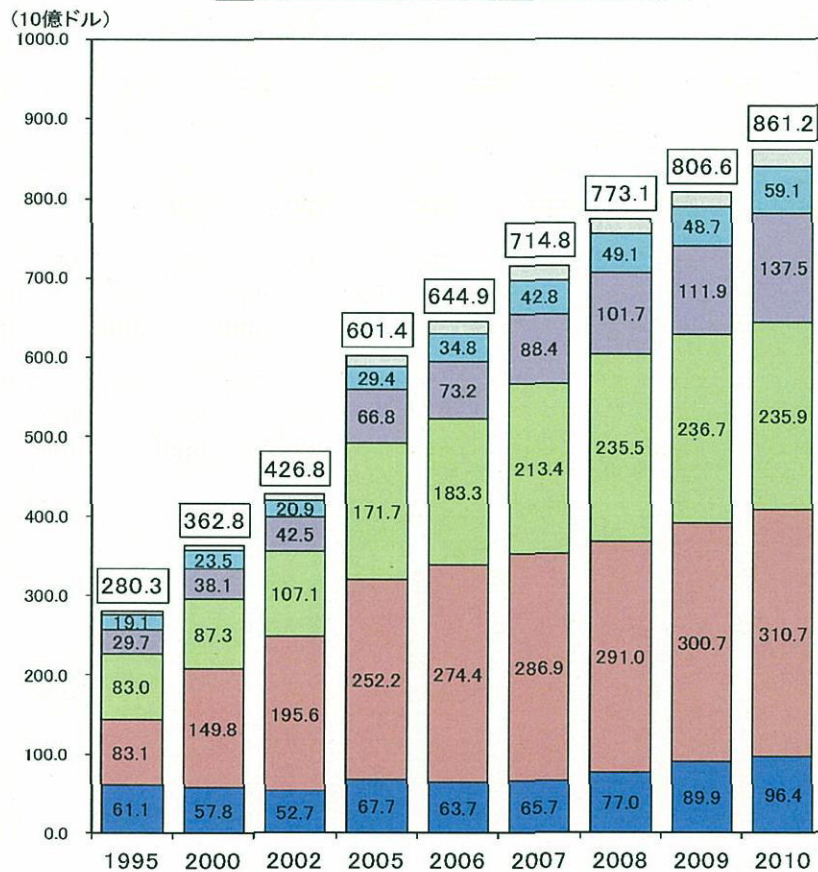
Source: Asian Development Bank 『Asia2050: Realizing the Asian Century』

出所: 総務省統計局「国勢調査」, 「人口推計」及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」

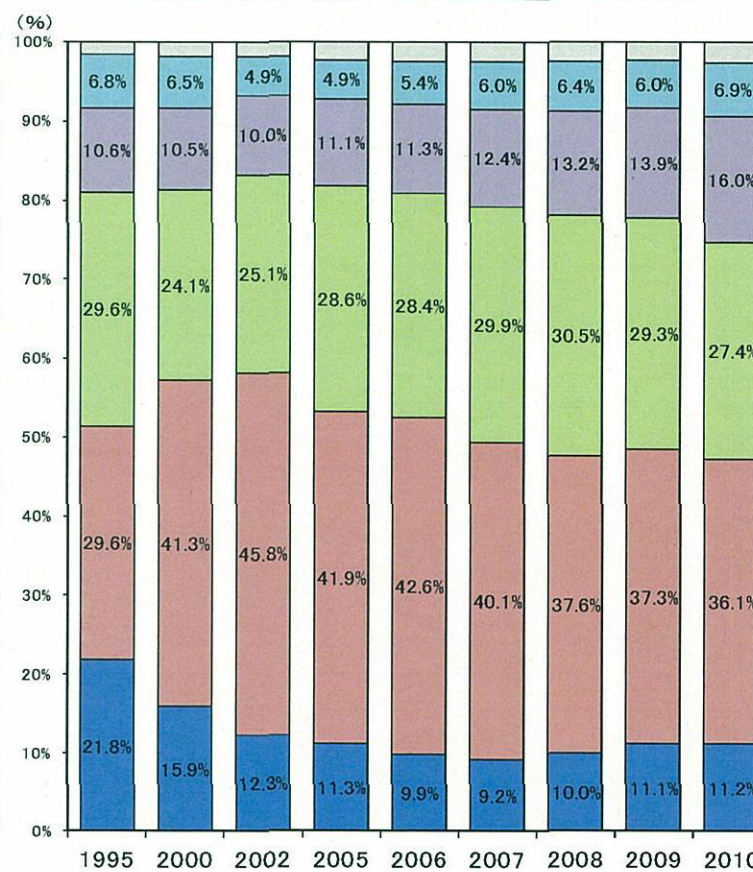
【参考】世界における医薬品市場の変化

- ◆ 世界の医薬品市場規模は、1995年から2010年で3.1倍に成長。日本市場は1.6倍に止まる。
- ◆ その結果、世界の医薬品市場における日本のシェアは半減(11.2%)。

世界の医薬品市場の推移



世界の医薬品市場シェアの推移



■ 日本 ■ 米国 ■ 欧州 ■ アジア・アフリカ・オセアニア ■ 中南米 ■ その他

出所：©2013 IMS Health. IMS World Reviewをもとに作成(転写・複製禁止)
 出典：医薬産業政策研究所(2011年8月作成)

【参考】第2回アジア製薬団体連携会議(4月11-12日)の成果

合意事項〔要約〕

- ▶ 『革新的な医薬品をアジアの人々に速やかに届ける』の実現に向け、アジア各国製薬協会、各国政府・アカデミア等の参加を積極的に促し、**アジアでの新たな産官学連携体制構築**を目指す。
- ▶ 第3回APACは、**2014年春、東京で開催**する。

規制・許認可

- アジアにおける医療用医薬品の早期申請・承認の実現に向けた**活動方針、ロードマップ**を作成し、具体的な取り組みを開始。
- アジア各国規制当局への働きかけはもとより、**アジアにおける関連会議との連携も模索**。

創薬連携

- オープンイノベーションのプラットフォーム構築の一環として、**情報交換・ネットワークの構築、人材交流から開始し、アジアの産官学・ベンチャーが協働できる環境を整備**。〔短中期目標:アジア各国におけるオープンイノベーションのプラットフォーム形成〕
- **アジア地域の創薬関係シンポジウム、カンファレンスを活用してオープンイノベーション推進活動を実施**。

【参考】グローバルヘルスの向上に向けた取り組み

『グローバルヘルスに関する優先課題と活動』（2012年11月9日策定）

目的

革新的な医薬品を創出し、世界の医療に貢献する我々は、世界の一員として、グローバルヘルスを考える社会的責任があることから、グローバルヘルスに対する姿勢を製薬協としてマルチステークホルダーに発信する。

優先課題項目

1. イノベーション：医薬品及びワクチンの創出
2. 3大感染症及び顧みられない熱帯病(NTDs)
3. 能力開発
 - 3-1 実務指導
 - 3-2 教育訓練
4. 知的財産制度
 - 4-1 知的財産制度と新薬開発
 - 4-2 発展途上国における医薬品アクセスと知的財産制度の貢献
 - 4-3 強制実施権
5. 偽造医薬品対策
6. 非感染性疾患(NCDs)
7. 信頼と倫理
8. その他
 - 8-1 会員企業の取り組み事例
 - 8-2 製薬協の国際協力事業